

# 先行発展区—太平洋ロシアの 地域発展のための新たなツール—<sup>1</sup>

ロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所学術顧問  
ピョートル・バクラノフ

## 要 旨

2014年ロシア連邦政府は、先行発展区の形成といった新たな極東地域の開発手段を導入した。ここで、先行発展区というのは、(最大数十平方キロメートルの)コンパクトな地域で、そこには経済面、地理面、社会面、インフラ面、科学面、教育面および環境面で、輸出向けのハイテク最終製品の製造を支える好条件が備わっている地域と理解されるものである。先行発展区に投資を行う企業は、相当の優遇措置、例えば最長10年間の免税、行政面・通関面での特例措置、公共インフラ整備といった措置を享受することになる。極東地域に設置された19カ所の先行発展区には、それぞれ特徴付けがなされている。本稿では、先行発展区に関わる主要な規定、優先経済活動部門、それぞれの先行発展区の形成の際の特徴や発展段階について検討している。先行発展区の形成に伴って生じる問題についても言及している。

キーワード:ロシア極東地域、経済特区、先行発展区(TOR)

JEL classification: O21, O22, P25, R58

## 1. はじめに

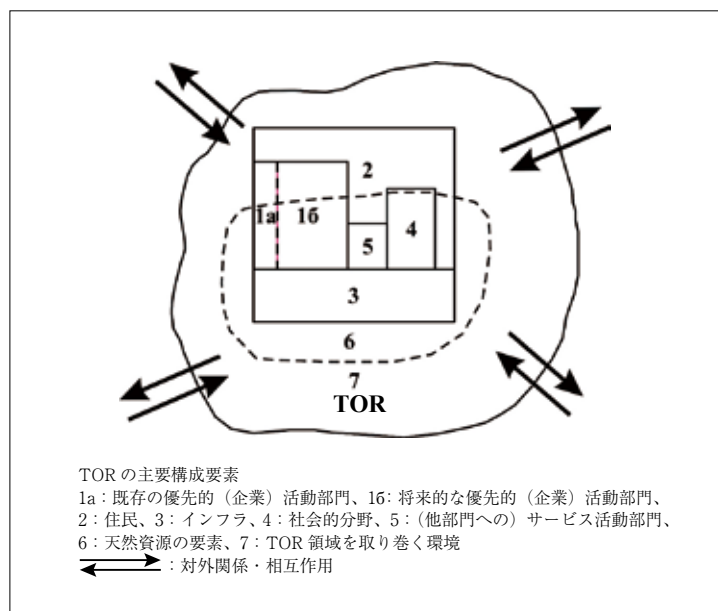
2014年末にロシアでは特別な連邦法(FZ-473)が採択され、その中で先行発展区(территория опережающего развития: TOR)を形成するための条件やメカニズムが規定された。

大まかに言うと、TORというのは数平方キロメートルから数十平方キロメートルの大きさのコンパクトな地域であり、そこは地理的、社会的、経済的、科学・教育的な側面において、輸出志向の革新的生産活動を発展させる好条件が整っている地域と理解されるものである(バクラノフ, 2014)。

TORの構造・機能を一般化した模式図を図1に示す。TOR域内においては、生産施設や企業の外、住民や社会インフラを含めて考える必要がある。このようにして定められた地域が、実体的な意味での「先行的社会経済発展区」(略して「先行発展区(TOR)」)である。

TOR全体は、局地的なレベルでの地域的社會経済システムと見ることができる(バクラノフ, 2017)。場合によっては、一つのTORは複数の別々の区画から構成されることがあり、それぞれの区画には一種類ま

図1 先行発展区(TOR)の機能的構造の主要構成要素



出所: 著者作成

たは様々な種類の経済活動部門やインフラ、社会施設が立地する形をとる。その際も、TORの構造・機能に係る全体的な模式図は変わることがない。

TORの入居企業(resident)に対しては、連邦法により、以下のような幅広い優遇措置が規定されている。

- ・入居者に対する免税措置 最長10年
- ・利潤税の減税(合計の税負担率は12.2%を超えない)
- ・設備・機械に対する関税上の優遇措置
- ・連邦・地方財政による公共インフラ整備
- ・インフラ施設への接続における優遇措置
- ・短期間での書類手続

<sup>1</sup> 本論文は、ロシア基礎研究基金(RFBR)の助成 No.18.05.80006/18を受けた研究成果の一部である。

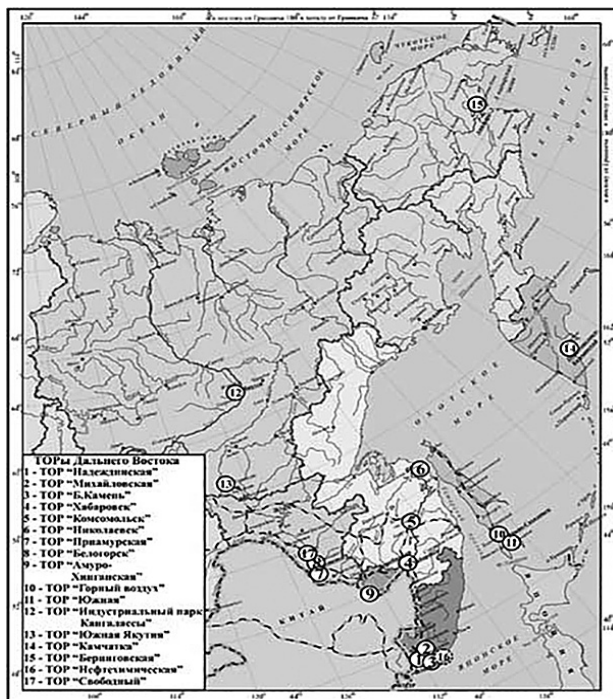
- 土地利用および政府による監督における特別ルール

これらすべての優遇措置は、TORにおける投資の魅力を増大させるためのものであり、その対象はロシアの投資家のみならず外国投資家のためでもある。

## 2. 太平洋ロシアにおける TOR の設置

現時点において、太平洋ロシアにおいて18カ所の TOR が設置（政府により承認）されている（図2）。TOR はマガダン州を除く極東のすべての連邦構成主体に設置されている。最も多いのは、沿海地方の4カ所で、次いでアムール州、ハバロフスク地方、サハリン州に3カ所ずつ、サハ共和国（ヤクーチア）に2カ所、チュコト自治管区、カムチャツカ地方、ユダヤ自治州に1カ所ずつある。表1に、特化分野ごとに TOR を分類して示した。これらすべての TOR が形成途上にある。とはいえ、すでに TOR 全体で約250の入居企業、すなわち意義ある投資プロジェクトを提示した様々な企業が決まっているのである。

図2 極東に設置済みの先行発展区 (TOR)



1. TOR 「ナデジジンスカヤ」、2. TOR 「ミハイロフスカヤ」、3. TOR 「ボリショイ・カメニ」、4. TOR 「ハバロフスク」、5. TOR 「コムソリスク」、6. TOR 「ニコラエフスク」、7. TOR 「プリアムールスカヤ」、8. TOR 「ペロゴルスカヤ」、9. TOR 「アムール・ヒンガンスカヤ」、10. TOR 「ゴルヌイ・ボズドフ」、11. TOR 「ユジナヤ」、12. 工業団地 (IP) 「カンガラッサイ」、13. TOR 「ユジナヤ・ヤクーチア」、14. TOR 「カムチャツカ」、15. TOR 「ベリゴフスカヤ」、16. TOR 「ネフテヒミーチェスカヤ」、17. TOR 「スポボドヌイ」

出所：ボルコフ他（2018）に基づき太平洋地理学研究所が作成

表1 特化分野に基づく TOR の分類

多部門型の TOR			
天然資源の採取	農業	製造業	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• アムール・ヒンガンスカヤ（ユダヤ自治州）</li> <li>• クリル（サハリン州）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ペロゴルスカヤ（アムール州）</li> <li>• プリアムールスカヤ（アムール州）</li> <li>• ユジナヤ（サハリン州）</li> <li>• カムチャツカ（カムチャツカ地方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ナデジジンスカヤ（沿海地方）</li> <li>• カンガラッサイ（サハ共和国）</li> <li>• ハバロフスク（ハバロフスク地方）</li> <li>• コムソリスク（ハバロフスク地方）</li> <li>• ニコラエフスク（ハバロフスク地方）</li> </ul>	
少数部門型の TOR			
天然資源の採取	農業	レクリエーション・観光	製造業
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ベリゴフスカヤ（チュコト自治管区）</li> <li>• ユジナヤ・ヤクーチア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミハイロフスカヤ（沿海地方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゴルヌイ・ボズドフ（サハリン州）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボリショイ・カメニ（沿海地方）</li> <li>• 東部石油化学基地（沿海地方）</li> <li>• スポボドヌイ（アムール州）</li> </ul>

出所：著者作成

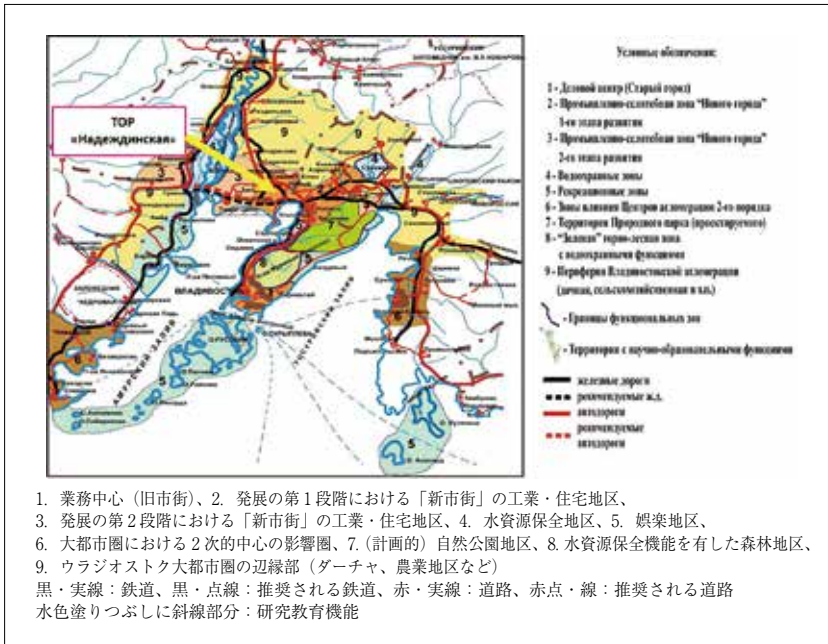
現在、インフラ施設の建設と入居企業による主要事業施設の建設が同時に進んでいる。

## 3. TOR 「ナデジジンスカヤ」将来発展計画の策定

2016年に最初に承認された TOR の1つに、ウラジオストク市郊外の多部門型 TOR 「ナデジジンスカヤ」がある。政府は、すべての TOR に対して一連の計画・設計図書策定を義務付けているが、TOR 「ナデジジンスカヤ」においては「プリモルグラジダンプロジェクト」という研究機関がその多くの作業を行った。この TOR についての「将来発展計画」という名称の総括文書は、筆者の指導の下で、ロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所の多くの研究者と何人かのプリモルグラジダンプロジェクトの専門家が参加して取りまとめられた。TOR 「ナデジジンスカヤ」の将来発展計画の主な内容は以下のとおりである。

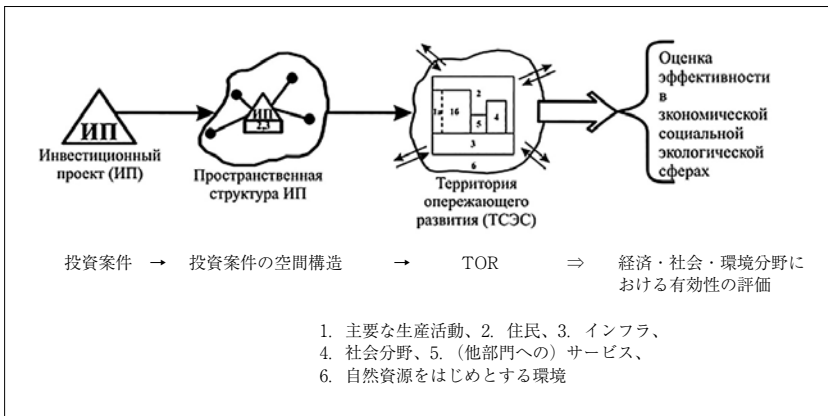
- 1) 当該区域および周辺地域の全般的特徴
- 2) TOR 「ナデジジンスカヤ」形成に係る主要な前提条件と競争上の利点の評価
- 3) TOR の承認済みおよび潜在的入居企業の特徴
- 4) TOR 「ナデジジンスカヤ」の域内における優先経済活動部門特定の根拠
- 5) TOR 「ナデジジンスカヤ」形成の経済

図3 ウラジオストク大都市圏の領域・水域の機能的地域区分



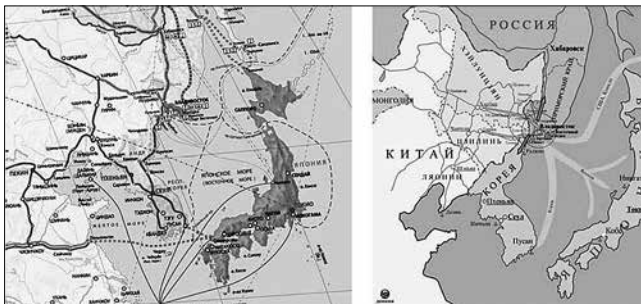
出所：太平洋地理学研究所

図4 投資案件をTORに取り込むことの評価スキーム



出所：バクラノフ (2016)

図5 ウラジオストクおよびTOR「ナデジジンスカヤ」の国際交通体系における位置



出所：極東海運研究所 (FEMRI) 提供

を基本とした。

1. TOR「ナデジジンスカヤ」の形成はウラジオストク市の発展と緊密に結びついていなければならない。さらに、当該TORの形成は、ウラジオストク大都市圏 (図3) 発展の重要な1段階かつ一環でもある。

2. 当該TORの形成を、一連の新規投資案件を域内に取り込むことを通じた、その地域の社会経済システムの発展としてとらえること。このことの評価、指数化のため、我々が開発したこうした評価のための一般的アルゴリズム (図4) を利用した。

図4において、「投資案件」とあるのは、特定の個別投資案件を指しており、通常、当該TORにおける優先経済活動部門に係るものである。それは、新規設立企業の形をとって実施される。この企業のため、原料調達市場や製品・サービス供給先市場などの空間構造が検討される。そしてこの構造が、形成されつつあるTORの構造に組み込まれるのである。

将来的な発展計画では、沿海地方およびウラジオストク大都市圏の詳細な経済社会的特性が示されているが、TOR「ナデジジンスカヤ」ならびにそこでの投資案件はまさにこれらの地域の中に取り込まれることになるのである。TOR「ナデジジンスカヤ」が立地する地域の経済地理的および交通地理的な独特の位置づけの評価が行われ、この地域が主要な鉄道、海上輸送路、道路輸送、航空輸送拠点の結節点にあることが示された。また、複数の主要港湾のほか、中国や北朝鮮への越境地点からも近い (200km未満にある)。さらに、TOR「ナデジジンスカヤ」自体が海に面している。比類なき地理的な位置が、アジア太平洋地域におけるロシアの戦略的・経済的利益実現にあたっての沿海地方南部の特別な役割を規定している。TOR「ナデジジンスカヤ」の重要な長所の1つは、国際交通体系におけるその位置である (図5)。

問題点としては、当該TOR域内のインフラ整備状況が不十分であること、また、(近傍のウラジオストク市、アルチョム市、ナデジジンスキー地区に一定の労働力があるにも関わらず) 労働力が不足する恐れ

的有効性に関する総合的評価  
6) TORの社会インフラを含む空間的発展の将来展望の評価

7) 主要結論  
TOR「ナデジジンスカヤ」将来発展計画の策定にあたり、我々は次の2つの原則

表2 TOR「ナデジジンスカヤ」の優先経済活動部門とその発展要因

	優先経済活動部門の発展に有利な要因						
	自然・資源面の潜在力	科学・技術面の潜在力	周辺の経済活動との協働	専門家の有無	地元市場志向(輸入代替)	国際関係、特に輸出志向	
優先経済活動部門	建設資材の生産	++	++	+	++	++	+
	食品工業、特に水産加工	+	++	+	++	++	+
	軽工業(特に作業着)	-	+	+	+	++	-
	輸送・ロジスティクス	+(立地)	++	++	++	++	+
	海洋関連設備製造、特に水中ロボット製造	-	++	+	++	++	+
	養殖用設備(特に、一体型設備)	++	++	+	+	++	+
	火力発電所(ガス火力)	++(ガス)	+	++	+	++	-
	深水港	++	+	-	++	++	++
自動車工場(ウラジオストク)	+(立地)	+	+	+	++	+	

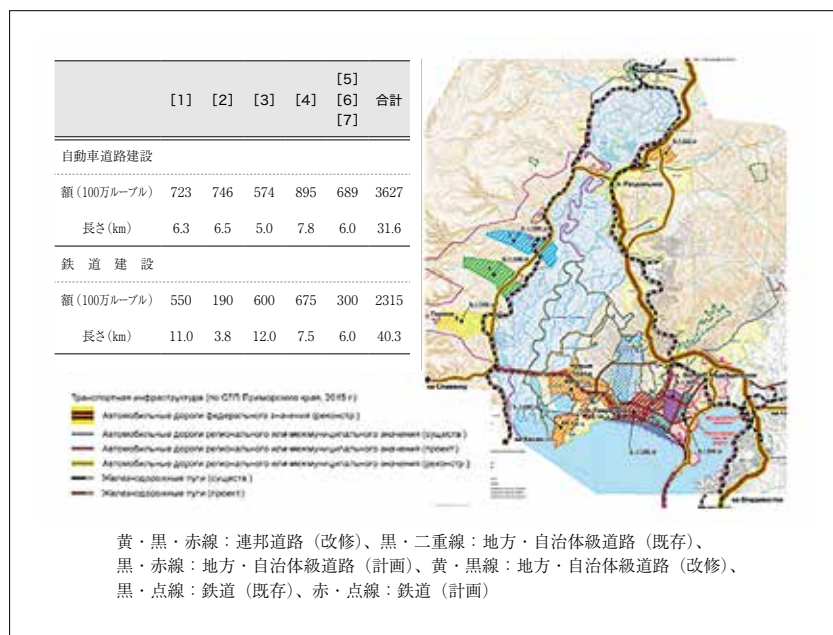
出所:筆者作成  
注: (-) 要因の役割が存在しない。(+) 要因の役割が存在する。(++) 要因の役割が著しい。

表3 TOR「ナデジジンスカヤ」の優先的な大規模潜在的入居企業

No.	潜在的入居企業	投資額(10億ルーブル)	雇用者数(人)
1	大規模輸送・物流センター	4.5	1,550
2	水中ロボット設計・製造クラスター	65	1,500
3	自動車組立「ソラーズ」社	40	3,000
4	電気自動車製造企業	35	2,500
5	一体型養殖用設備製造企業	15	1,200
6	バイオテクノロジーパーク(クラスター型)	15	950
7	住宅用構造物製造企業	3.2	420
8	製薬企業	25	900
9	菓子製造企業	16	800
10	大深水港湾	150	500
11	小麦粉・パン類製品・同半製品製造クラスター	20	1,500
合計		388.7	14,820

出所:筆者作成

図6 空間的發展および交通インフラ構築のスキーム



出所: プリモルグラジダンプロジェクトおよび太平洋地理学研究所作成

があることが指摘されている。

将来的な発展計画のうち、TORにおける優先経済活動部門特定の根拠を示した部分は最も重要である。この目的のため、我々は極東地域、沿海地方、ウラジオストク市および同大都市圏にかかる既存の長期発展プログラムを分析した。その他、ロシア科学アカデミー極東支部の各研究所、極東連邦大学ほかの研究機関による革新的な検討成果も考慮した。これらに基づき、TORにおける優先経済活動部門を暫定的に特定した。その後、これら各部門の主な発展要因ならびに潜在的な域内・国際市場の評価を行った(表2)。

多くの優先経済活動部門に関しては、アジア太平洋地域を中心としつつ、世界市場の評価を行った(ラーリン編、2017)。



これらの結果として、TOR「ナデジジンスカヤ」において推奨される優先経済活動部門が提示された(表3)。

これら入居者の立地ならびに社会的なインフラの整備のため、我々は7カ所の区画を特定した(図6)。

将来発展計画の中で最も重要な章は、TOR 発展の各段階の予測評価および経済的有効性の評価にかかるものである。

発展段階は3段階に分け、第1段階は2016~2018年、第2段階は2019~2028年、第3段階は2029~2035年およびそれ以降とした。

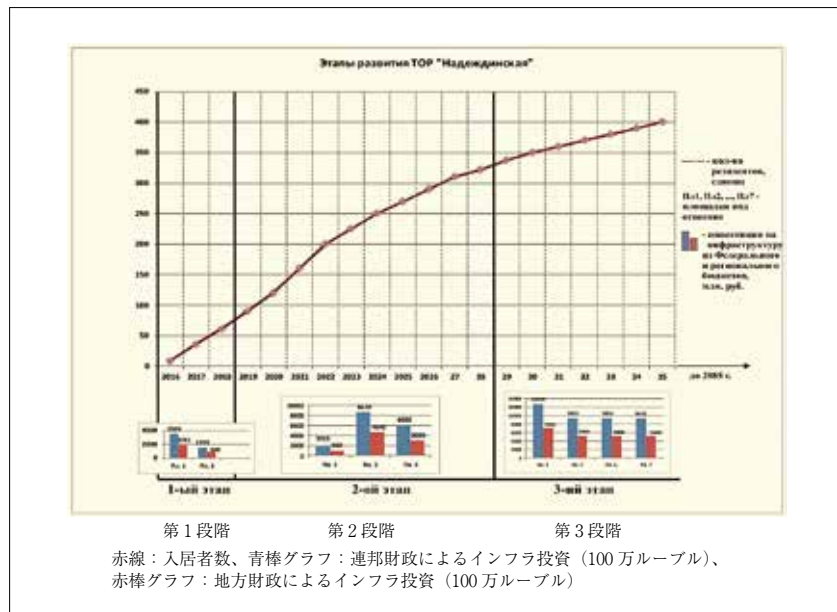
これらの各段階について、経済活動部門ごとの入居者数、投資額、雇用者数、想定される財政資金投入額、納税額の予測を行った(図7)。また、インフラ投資および社会的経費の所要額も見積もった。

全体として、予測値をまとめてみると、当該 TOR が高い有効性を持つ可能性が示されたといえる。例えば、インフラ投資1ループルあたり、最大15ループルの民間投資を誘致することができる。入居者の投資回収期間は7~8年程度となりうる。合計で6万人の雇用が生まれるが、その一部は最新の革新的技術を用いた産業活動である。

以上のように、将来発展計画では、TOR「ナデジジンスカヤ」が、ウラジオストク大都市圏にとっても、また沿海地方全体にとっても、高い社会経済的意義を持つことが示された。

2019年初頭時点において、TOR「ナデジジンスカヤ」では、43社が入居企業の資格を得ており、合計で4300人の雇用創出と300億ルーブル以上の投資を計画している。すでに(計画準備段階が終わり)実施段階にある企業として、プラスチック製品生産の「エプロプラスト」、住宅用部材製造の「イノバティカ」、水産加工の「ルースキー・ミンタイ」、菓子・パン類製品製造の「プリムコン」などがある。

図7 TOR「ナデジジンスカヤ」の発展段階



出所：太平洋地理学研究所およびプリモルグラジダンプロジェクト作成

表4 極東での TOR 形成における主要な問題

		負の影響	
		TOR域内	地域内(地方、州)
主要な問題	1. TORの優遇措置による課税ベースの縮小	-	+
	2. 根拠に基づかない優先経済活動部門の指定	+	+
	3. TOR以前の既存企業と新規企業の競争関係	-	+
	4. TOR域内での非優先活動企業(入居企業)の設立	+	-
	5. 連邦・地方財政によるインフラ整備計画の未遂	+	-
	6. 入居企業による稼働開始期限(および活動部門)の違反	+	+
	7. 社会分野の発展度合の遅れ	+	+

出所：筆者作成

注：(+)問題がある。(-)問題がない。

#### 4. おわりに

極東の TOR 全体に関して、我々は TOR 形成・発展に伴う主要な問題を抽出した(表4)。

極東の TOR 形成の全体管理は、株式会社極東開発公社、ならびに極東発展省が担っている。

将来的には、陸上・海上の天然資源の高度加工に関わる産業などの新たな TOR が形成される可能性がある。その際、初期の TOR 形成の経験を活かす必要があり、そうした経験の一つとして将来発展計画策定も含まれる。

[ロシア語原稿をERINAにて翻訳]

## <参考文献>

- バクラノフ (2014): Бакланов П.Я. Территории опережающего развития: понятие, структура, подходы к выделению // Региональные исследования, 2014, № 3 (45), с. 12-19. (先行発展区:概念、構造、確定の方法)
- バクラノフ (2016): Бакланов П.Я. Метод «включения-исключения компонентов» в изучении структурных трансформаций в территориальных социально-экономических системах. – В кн. «Геосистемы и их компоненты в северо-восточной Азии. Эволюция и динамика природных, природно-ресурсных и социально-экономических отношений. Владивосток, Дальнаука, 2016, с. 12-14. (地域的社會經濟体系の構造転換の検討にあたっての「構成要素の編入・除外」手法)
- バクラノフ (2017): Бакланов П.Я. Территориальные социально-экономические системы в региональном развитии // Известия РАН, сер. географ., 2017, № 4, с. 7-16. (地域発展における地域的社會經濟体系)
- Болков И.И. (2018): Дальний Восток – шаг вперед: информационное издание / П.М. Волков, Д.В. Боярко, Е.А. Сачков, А.О. Скорик, Д.В. Гарин. – Владивосток: ДВО РАН, 2018. – 111с. (極東—一步前進)
- Минакири, В.И. Сергиенко. (2011): Синтез научно-технических и экономических прогнозов: Тихоокеанская Россия – 2050. Под ред. П.А. Минакири, В.И. Сергиенко. Владивосток, Дальнаука, 2011, - 912 с. (科学技術・経済的総合的予測:太平洋ロシア)
- Ларина В.Л. (2017): Тихоокеанская Россия в интеграционном пространстве Северной Пацифики в начале XXI века: опыт и потенциал регионального и приграничного взаимодействия (под ред. В.Л. Ларина). Владивосток, ИИАЭ ДВО РАН, 2017, 386 с. (21世紀初頭の北部パシフィックでの統合された空間における太平洋ロシア:地域・越境交流の経験と潜在力)